にかほ市学校環境適正化基本計画（案）に関する意見交換会

●開催結果

日　　時	会　　場	出席者数	備　考
令和６年１月20日（土） 10:00〜10:56	象潟構造改善センター 研修室	８名	
令和６年１月20日（土） 18:00〜18:50	金浦公民館 研修室	１名	
令和６年１月25日（木） 18:00〜19:34	仁賀保公民館 ミーティングルーム	９名	

●各会場における主な意見・質問等

■令和６年１月20日(土) 象潟構造改善センター 研修室

① 中学校が統合するとなれば、学童保育はどうなるのか。

学童保育の現状は、小学校までを受け入れとしている。

② 中学校が統合するとスクールバスでの通学となるのか。バスは何台用意するのか。下校のバスは定時の１便だけでなく、部活動や核家族、両親の遠距離勤務も考慮に入れた編成として欲しい。

統合後は通学が遠距離となるためスクールバス利用となるが、運行経路は統合校の位置を決定していないので、まだ具体的な検討には至っていない。できるだけ子どもたちの負担にならないような形での通学手段を確保していきたい。

③ 資料にある教員数を確保するためには、人数や学級数に決まりがあるのか。

学級数によって配置される教員数が決まっており、学級数が多いほど教員数も多くなる。中学校は専門教科が増えるので、できるだけ教員が多いほど、専門教科の教員も確保できるということになる。

④ 中学校統合の間に現在の学校間交流を考えているか。小学校のうちから年複数回の学年全員を集めて交流する機会を設けて欲しい。

象潟小学校が上浜小、上郷小と統合する際にも、多くの行事や一緒に宿泊するなどで交流の機会を設けている。子ども達が安心して登校できるように小学校の頃から前もっての交流について、前例を参考に行っていく。

⑤ 学習方法や学校によっての違いはどのように調整されるのか。在学生の制服や体育着など今使っているものはどうなるのか。

統合準備委員会の中で現状を比較して違いを調整していく。制服や体育着等は、これまでのように、その時に使用しているものをそのまま使うような調整がなされると思う。そのため１～２年は混在する時期があります。

⑥ 中学校の統合は、遠方の保護者の負担が大変で、通学手段を一番心配している。天候等によるバス時間などの変更は、どのような手段で保護者に連絡されるか検討しているか。

アプリを利用されている高校があることは承知していますが、現時点ではその導入予定を検討はしていません。学校では、そうした事態を把握できれば保護者向けに緊急メールで連絡できますが、対応の仕組みを考えていく必要があると考えている。

⑦ バス停留所等の整理を行うのか。

停留所の設置場所は、生徒の住まいの状況を把握して整理していくことが、待合所に関しては全ての停留所に整備するということは難しいと考えている。

■令和６年１月20日(土) 金浦公民館･研修室

⑧ 金浦小学校を残すとの考えに、旧釜ヶ台小中学校のように小中一貫校を考えなかったのか。

本計画では、学校の小規模化の改善を目的としており、例え小中一貫校としても小規模化の解消にはつながらないとの意見が住民検討委員会でもあった。地域ごとの一貫校とするよりも、統合である程度規模を大きくすることが子ども達にとって良いとの考えからの計画案としている。

■令和６年１月25日(木) 仁賀保公民館･ミーティングルーム

⑨ 令和４年のアンケートで先生だけの集計はあるか。先生との意見交換会はあったのか。

アンケートの先生だけの集計したものはなく、保護者、教員、自治会の皆さんを総体的にまとめている。また、先生との意見交換会は行っていない。

後日、先生のみ分を集計したデータ結果があることを確認できた。

⑩ 中学１年生徒数の今後の推移からクラス数は令和 14 年度までは各校とも 1～2 学級と変わらないが、なぜ３学級とする方針なのか。

令和４年度実施したアンケートで、3～5 学級が望ましいとの 77%の回答を踏まえている。

令和４年度「小中学校の適正規模・適正配置検討委員会」からの提言を尊重した考えでもある。

⑪ 学校運営の面で教員の数の減少は、無理が生じてくるとは、具体的にどういうことか。

教員一人ひとりに割り当てられる仕事量が増え負担が大きくなるため、子どもと触れ合う時間が減少することが考えられる。人数と学級数によって教員の配置数が決まるので、学級数が少なくなると職員数が減少し、仕事量・負担が増え学校運営は厳しくなるということ。

⑫ 小学校について旧町単位での１校配置は考えていたが、中学校に関しては１校ではなく２校体制の考えは無かったのか。

2 校体制を進めたとしても、生徒数の推移の見通しから早期の更なる統合が見込まれるため、早い段階での 1 校体制が望ましいと判断したもので、検討した上での計画案としてまとめている。

⑬ 登下校はスクールバスとなるようだが、下校は部活動などを考えるとバラバラと想定される。運行時間は１本の運行か、細かに複数本の運行とするのか

スクールバスの運行は、部活動の終了後でも利用できるような運行について、十分に検討していきたい。

⑭ 新聞報道された計画案は、統合ありきでもう決まっているとの印象を受けている。現場の先生も知らず、アンケート結果から行政サイドで統合と決められていて、まだ計画を変えられるならば意見を出すと思うが諦めていると思う。事務方の都合で進められていて、一番影響を受ける世代の保護者や教員の声が拾えていない印象なので、もう意見は聞かずに進めていくのか考えを聞きたい。

この計画案の当事者は今の未就学児と保育園の保護者の方々と認識しており、直接意見を伺いたく昨年 11 月にも意見交換会を開催したものの参加者は少なく、効果が得られるよう開催アンケートから調整して再度機会を設けていることを理解いただきたい。実際に声が届いていない人もたくさんいることは確かだと思う。意見交換するにも一つの案が必要で、令和4 年度に代表者（自治会や学校長、ＰＴＡ、未就学児保護者、関係機関等 30 人）に検討いただき提言としてまとめられ、教育委員会はそれを尊重して計画案を作り上げている。このように行政が案を作成しているが、少数であっても民意を基にしている。子ども達のための環境を整えようとするものなので、今後も保育園等にて説明する機会・場を設けたいと考えている。

⑮ 友人関係トラブルの解決法としてクラス替えというのは良く取られる解決策なのか。

基本的に学校はより良い人間関係を作れるようにしますが、中には喧嘩で中が悪くなりト

ラブルが続くこともある。クラス替えがベストとは言えないが、一つの方法として学級数が多くあればこれによって仲良くなれるチャンスも出てくることもあるので、一つの方法と捉えてほしい。

⑯ 計画案でのスケジュールがタイトに見えるが、これによらないといけないのか。国や県等との関係があってこのようなスケジュールなのか。学校は地域コミュニティの中核ならば学校と地域の繋がりを考慮しても統合は早く、自治会長、教員、現在の保護者といった当事者から統合を先延ばしする選択肢も入れて意見を聞いてほしい。３校を１校ではなく、２校にする柔軟性はないのか。個人の意見だが早すぎる。

この計画案が上部機関との関係性をもって定めているものではなく、スケジュールはあくまでも予定である。スケジュール的には逆算しても 10 年、それを目指すこととしている。6 年度以降も意見をもらう機会も考えるが、スケジュールを先延ばしするものではない。

⑰ 児童生徒の数ばかりではなく、災害が起こった場合も想定して安全安心な環境を整備してほしい。

単に児童生徒数だけで決定することではなく、多角的な視点から検討していくこととしている。市の最大津波想定は 10.14mだが、平沢小学校の 3 階は 18.4mあるし、それを想定した避難訓練もしている。海には近くなるが、院内小学校の保護者にも安心いただけるようにしたい。

⑱ 中学校の統合は、いきなり１校ではなく、まずは２校と段階を経てはどうか。２校の場合は、金浦地域を仁賀保中と象潟中に学区分けしてはどうか。

ご意見として受け賜る。